Kelo Associated Reposit	tory of Academic resouces					
Title	韓国系ディアスポラの母国メディア利用					
Sub Title	Homeland media use among Korean diaspora					
Author	李, 光鎬(Lee, Kwangho)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2018					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
JaLC DOI						
Abstract	インターネットの普及および高速大容量化、モバイル端末の普及は、海外に移住したディアスボラの人々の母国メディア利用に大きな変化をもたらしている。母国から遠く離れた移住地においても、ディアスボラの人々は目常的に母国のニュースをチェックし、ドラマを規範し、SNSで母国にいる人々と連絡を取り合っている。そしてこのような母国メディア利用は、ディアスボラのアイデンディティや移住国社会への適応、母国との関係、時間や場所感覚などへ少なからず影響を与えている。 本研究では、韓国から最も遠い場所の一つである南米アルゼンチンの首都、プナノスアイレスに移住した韓国系ディアスボラの人々が、韓国のメディアをどのように利用し、その利用からどのような影響を受けているのかを明らかにするために、現地調査およびインタビューを行った。アルゼンチンへの韓国系移民は、1960年代に始まった。1980年代大きく増え、90年代にはアルゼンチンの移送系を機のため減少したが、今でも23,000人余りが居住している。最初は農業移民であったが、現在はそのほとんどがブエノスアイレスで衣類の製造・流通業に従事している。現地調査は、その産業の拠点となっている町アベジャネーダで行われた。現体的には、アルゼンチン中間米韓国文化院行政担当官、ハングル学校長および教師、アルゼンチン中間米韓国文化院行政担当官、ハングル学校長および教師、アルゼンチン・マルマスで大型の製造・流通業に従事している。現地調査は、その産業の拠点となっている町アベジャネーダで行われた。現体的には、アルゼンチン中間米韓国文化院行政担当官、ハングル学校長および教師、アルゼンチン・マルスで大型場の変化が移民社会にもたらしている影響について話を問いた。また移民1世、1.5世、2世を含む韓国系ディアスボラを対象にインタビューを実施し、世代によるメディア利用パターンの違いやエスニック・アイデンティティ、母母と移住先に対する認識や将来設計など様々な側面について話を聞いた。ブエノスアイレスという場所の地理的要因も関わっていると思われる。メディア利用行動の研究ではこれまで、利用者が置かれている地理的環境はほとんど考慮されてよなかったが、本研究を通じて、今後、特性ディアスボラの母国メディア利用の研究においては、アルゼンチンという国、ブエノスアイレスという場所の地理の要因も関わっていると思われる。メディア利用行動の研究ではこれまで、利用者が置かれている地理的環境はほとんど考慮されては、アルゼンチンという国、ブエノスアイレスという場所の地理の要のではこれまで、利用者が置かれては、アルザンチンという国、ブエノスアイレスという場所の地理の要のではこれまで、アスボラの母国メディアの母国メディアのの母国メディアスボラの母国、アスディアスボラの母国、アスディアスボラの母国、アスボラの母国、アスボラでは、中ではいまがは、中ではいまでは、中ではいまがは、中では、中ではいまがは、中ではいまりがは、					

	Compared to Korean diaspora in Canada and Australia, which have been investigated so far, those in Buenos Aires have very different goals and situations of living, which is one of the important factors stipulating the use of homeland media. And the geographical factors of Argentina or Buenos Aires seem to have to do with the situation. In the research on media use behavior, the geographical environment in which the users are located has hardly been taken into consideration, but through this research, especially in the study of homeland media use of diaspora, the geographical analysis is confirmed as a necessary task.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	- 補助額	200 ((B)	千円
	氏名	李 光鎬	氏名 (英語)	Lee, Kwangho			(6)	

研究課題(日本語)

韓国系ディアスポラの母国メディア利用

研究課題(英訳)

Homeland Media Use among Korean Diaspora

1. 研究成果実績の概要

インターネットの普及および高速大容量化、モバイル端末の普及は、海外に移住したディアスポラの人々の母国メディア利用に大きな変化をもたらしている。母国から遠く離れた移住地においても、ディアスポラの人々は日常的に母国のニュースをチェックし、ドラマを視聴し、SNSで母国にいる人々と連絡を取り合っている。そしてこのような母国メディア利用は、ディアスポラのアイデンティティや移住国社会への適応、母国との関係、時間や場所感覚などへ少なからず影響を与えている。

本研究では、韓国から最も遠い場所の一つである南米アルゼンチンの首都、ブエノスアイレスに移住した韓国系ディアスポラの人々が、韓国のメディアをどのように利用し、その利用からどのような影響を受けているのかを明らかにするために、現地調査およびインタビューを行った。

アルゼンチンへの韓国系移民は、1960年代に始まった。1980年代大きく増え、90年代にはアルゼンチンの経済危機のため減少したが、今でも23,000人余りが居住している。最初は農業移民であったが、現在はそのほとんどがブエノスアイレスで衣類の製造・流通業に従事している。現地調査は、その産業の拠点となっている町アベジャネーダで行われた。

具体的には、アルゼンチン中南米韓国文化院行政担当官、ハングル学校長および教師、アルゼンチン韓人会会長および役員、アルゼンチン韓国学校長および教師を訪ね、韓国系移民コミュニティの特徴や最近におけるメディア環境の変化が移民社会にもたらしている影響について話を聞いた。

また、移民 1 世、1.5 世、2 世を含む韓国系ディアスポラを対象にインタビューを実施し、世代によるメディア利用パターンの違いやエスニック・アイデンティティ、母国と移住先に対する認識や将来設計など様々な側面について話を聞いた。

ブエノスアイレスの韓国系ディアスポラは、これまで調査を行ってきたカナダやオーストラリアなどにおけるディアスポラに比べ、移住 先での生活の目標や様子が大きく異なっており、これが母国メディアの利用を規定する重要な要因の一つになっていると考えられた。 そしてこれには、アルゼンチンという国、ブエノスアイレスという場所の地理的要因も関わっていると思われる。メディア利用行動の研究 ではこれまで、利用者が置かれている地理的環境はほとんど考慮されて来なかったが、本研究を通じて、今後、特にディアスポラの母 国メディア利用の研究においては、地理学的視点からの分析が必要であることを確認した。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

Diffusion of the Internet and mobile terminals have made a big change in the use of homeland media of the diaspora who moved out of their home country. People of diaspora routinely check the homeland news, watch dramas, and keep in touch with people who are in their home country with SNS, even in host countries far away from their home countries. And such homeland media use has influenced diaspora's ethnic identity and adaptation to host society, relationship with their home country, and the perception of time and place to a certain extent.

In this study, it is investigated by a field survey and interview that how Korean diaspora who immigrated to Buenos Aires, the capital city of Argentina, one of the furthest places from South Korea, uses Korean media and how they are influenced by the homeland media use.

Korean immigration to Argentina began in the 1960s. It increased greatly in the 1980s and declined due to Argentina's economic crisis in the 1990s, but still, 23,000 people reside in. At first, it was an agricultural immigrant, but now most of them are engaged in the manufacture and sales of clothing in Buenos Aires.

Specifically, Korean Cultural Center administrative officer, Hangeul school director and teachers, the president of local Korean association, the principal of Korean school and teachers were interviewed on characteristics of the Korean immigrant community and the recent changes brought to immigrant society with the transition of the media environment. In addition, we conducted interviews for Korean diaspora including Immigration Ist, 1.5st, and 2nd generation, and made a comparison with various aspects such as differences in media usage pattern, ethnic identity, recognition of home and host societies and future design.

Compared to Korean diaspora in Canada and Australia, which have been investigated so far, those in Buenos Aires have very different goals and situations of living, which is one of the important factors stipulating the use of homeland media. And the geographical factors of Argentina or Buenos Aires seem to have to do with the situation. In the research on media use behavior, the geographical environment in which the users are located has hardly been taken into consideration, but through this research, especially in the study of homeland media use of diaspora, the geographical analysis is confirmed as a necessary task.

3. 本研究課題に関する発表									
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)						
	Media Consumption and Diasporic Identity among Korean Migrants in Buenos Aires: A Geography of Homeland Media	Communication	27-29 October, 2018(発表予定)						